

品質保証研究会 平成25年度活動計画

1. 活動基本方針

活動成果のなお一層の充実とその活用を図るため、以下の活動を実施する。

- ・全会員対象の講演会、見学会を計画し、会員相互の啓発を図る。
- ・定例研究会活動として、第1、第2の各グループのテーマに基づく、輪読、講義、購読、見学等の活動を推進すると共に、その活動成果を取り纏めて、会員の活用に供するように努める。
- ・会員間の情報交換、コミュニケーションの場の提供を図るため、QASG ニュースを発行すると共に、ホームページの有効活用を図る。

この方針に基づき、平成25年度の具体的な推進計画を以下に示すと共に、全体の活動計画(補足)を表1に示す。

2. 活動計画内容

2.1 総会

- ・第23回通常総会を開催する。
- ・総会終了後、定例研究会活動報告(第1グループおよび第2グループ)、特別講演(慶應義塾大学 高木晴夫教授による「組織論のこれから」)、および懇談会を行う。

2.2 講演会の開催

下期(平成25年12月)に1回の講演会を予定する。

2.3 見学会の開催

下期(平成25年10月)に1回の見学会を予定する。

2.4 「QASG ニュース」の発行

年度内(平成25年9月、平成26年1月、26年5月)3回のQASG ニュース発行を予定する。

2.5 定例研究会活動

(1) 第1グループ(リーダー：武田幹事)

- ・研究テーマ：品質システムの研究「原子力QMSのあるべき姿に関する研究 -セクタ規格の調査・研究-
- ・研究の進め方：

原子力QMSのあるべき姿を追求するためセクタ規格の調査・研究を行い、原子力QMSのあるべき姿について提言する。

自動車／医療／航空宇宙業界のQMSに関するセクタ規格と、ISO9001:2008との比較調査の結果をもとに、原子力業界として実効的な要求事項となり、取り入れるべきかの観点から議論を行い、原子力セクタ規格への提言としてまとめる。

(2) 第2グループ(リーダー：三角幹事)

- ・研究テーマ：エラーマネジメントに関する調査研究
- ・研究の進め方：

1) 想定外対応を統合した安全思想の再構築

H24年度検討した「安全を達成するために必要な個人及び組織の在り方」を、以下の観点で引き続き調査・研究する。

① **ソフトバリアの確立** ハードバリアを期待される状態に維持、管理し、防災を含めた「最後の砦は人である」を実現するソフトバリアについて調査・研究する。

② **西堀流品質管理の研究** 戦後品質管理の第一人者である西堀榮三郎先生は、人の個性と創意工夫を尊重し、「目的は絶対、手段は自由」、「責任は事の起こる前に負うもの」と言っている。これは安全を達成するための個人及び組織の能力に通じるものであり、西堀流品質管理を調査、研究する。

2) QMSとレジリエンス・エンジニアリングとの融合

① **レジリエンス分析評価グリッド(RAG: Resilience Analysis Grid)による組織の分析評価** H24年度に引き続きHollnagel先生が提案する、RAGの考え方により、現状の組織の分析評価を行い、日常的に柔軟な対応力(レジリエンス)を付加・融合したマネジメントシステムを調査・検討する。

以上

○・▽：計画

[illegible]